



財布の中のカードー表記と誇りー

校長 三村 孝志

財布には、何枚かカードが入っています。銀行のカード、郵便局のカード、蔦屋のカード、新潟県労働金庫のカードなどです。

並べて比べてみると、銀行のカードと蔦屋のカードには「TAKASHI MIMURA」と書かれています。郵便局のカードには「ミムラ タカシ」と書かれており、労働金庫のカードは表側には何も書かれなく、裏に「三村 孝志」と書かれています。「どなたですか？」と尋ねられたら、私は「みむらたかし」と答え、「三村孝志」と書きますと答えるでしょう。私は「三村孝志」であって、「TAKASHI MIMURA」ではありません。日本では、氏・名の順に言います。

ところが、スポーツの国際大会では「ナオミ オーサカ」「ケイ ニシコリ」などと呼ばれます。名・氏の順で紹介されるのです。気にしない人も多いかもしれません。私は、このような紹介の仕方がとても不快です。同じようにカードに「TAKASHI MIMURA」とあることも不快であり、できれば氏・名の順にして欲しいと思っています。また、ローマ字表記は訓令式であるべきで、ヘボン式は避けるべきだと考えています。

「TAKASHI」は「TAKASI」と表記しなければなりません。ローマ字は、表記であり、発音記号ではありません。「SHI」と書いてあった方が、英語話者にとって発音を推測しやすくても「SI」と表記すべきと考えています。

名前の付け方や呼び方は、その国の文化です。他国の文化を尊重すると同様に、自国の文化も尊重しなければなりません。自分が何者であるかを示す、大切な個人名を他国の文化にしたがって表記することは、自国の文化の破壊につながります。これは杞憂なのでしょうか。

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳』によれば、「他国を尊重」とは「他の地域や国々はそれぞれの文化や伝統、歴史をもっており、地域や国々の在り方、あるいはそうした地域や国々がもっている理想等を、違いは違いとして理解し、それを尊重していくこと」を意味しています（ここで確認しておきますが、解説で「、」を「,」と表記していることは、日本語の表記法の文化を尊重している態度とは言えません。間違いだと言いたいくらいです。).

したがって、アメリカの大統領は「ドナルド・トランプ」であり、「トランプ・ドナルド」と呼んだり、表記してはならず、日本の総理大臣は「安倍晋三（あべしんぞう）」であり、「シンゾウ・アベ」と呼んだり、「Shinzo Abe」と表記してはならないのです。

ノーベル文学賞作家カズオ・イシグロは、翻訳された文庫では「カズオ・イシグロ」と表記されています。彼の両親が日本人であったとしても、イギリス国籍を取得したこともあり、「石黒一雄」と表記してはならないと考えます。「Kazuo Ishiguro」という表記が望ましいのです。

ノーベル文学賞の有力候補とされる作家「村上春樹」は「ハルキ・ムラカミ」ではなく、「Murakami Haruki」と表記され、「ムラカミ・ハルキ」と呼ばれなければなりません。仮に村上春樹がノーベル文学賞を受賞したとき、「ハルキ・ムラカミ」と呼ばれるとすれば、日本の文化が尊重されているとは言えないと思います。

このことは、指導要領解説で言う「主体性のある日本人育成」「日本人としての自覚」にかかわります。2020年に開催される東京オリンピックでは、多くの選手がメダルを取ることを期待したいと思います。しかし、その紹介でメダリストを「ケンゾウ・シライ」などという呼び方をし、ほしくはありません。そのように呼ばれることに、多くの日本人が違和感を感じないとしたら、和歌に美しさを感じる感性の土台が危機に瀕しているのではないかと思います。

日本人としての主体性と誇りの問題だと思うからです。みなさんはどう考えますか。